



県政報告 県政を身近に

平成29年
2017
春季号

Vol.23

埼玉県議会議員

武内まさふみ

【発行】
埼玉県議会 自由民主党議員団

総務県民生活委員長に就任

平成29年2月定例県議会が3月末に終了しました。今議会では、自民党議員団が提案した2本の条例案や「5か年計画」に対する修正案が可決され、県議会が政策機能を存分に発揮しました。私は、今議会において総務県民生活委員長に就任させていただきました。本年度は委員会での審議を通じて、しっかりと県政のチェックをしていきます。皆様のご意見をお待ちしています。

平成29年2月定例県議会

(平成29年2月20日～3月27日)

【平成29年度】一般会計当初予算

1兆8,644億2,700万円

未来への投資拡充 自民要望で前進

新年度予算では、自民党議員団が強く要望していた私立高校に通う家庭の授業料実質無償化のさらなる拡充が図られました。また、県内で痛ましい事故があった駅のホームドア整備への支援制度の新設、交差点の安全対策など、安全・安心の取組が進みます。さらに、2020東京オリンピック・パラリン

ピック開催に向けた埼玉スタジアムの整備や2019ラグビーワールドカップの開催に向けた熊谷ラグビー場の改修などに取り組みます。県全体の予算が4年ぶりに対前年度0.9%減額になった一方で、農林部関連予算(+3.7%)及び公共事業費(+7.1%)はプラスとなりました。

私立高校の授業料 実質無償化拡充!

埼玉県内の私立高校生の保護者に対し、授業料(県内平均37万5千円)の実質無償化の対象を広げました。

28年度 年収 約500万円以下

29年度 年収 約609万円以下

その他、施設費等納付金20万円、入学金10万円、教科書代等の給付金8万4千円～12万8千円の県補助は継続します。

条例を具体化した農林予算

農業生産基盤の整備 50億5,800万円 (+27%)

農地の大区画化や用排水路の整備をはじめ、かんがい排水事業などの農業水利施設等を整備します。

農林水産試験研究の充実 10億1,600万円

農業技術研究センター(久喜市)に土壌用トマト温室を、茶業研究所(入間市)に抹茶製造施設を、水産研究所(加須市)に魚の養殖施設をそれぞれ整備します。

埼玉の水産業って?

埼玉県の水産業は養殖業が中心で、金魚、ニシキゴイなど観賞魚の主要生産県です。また、ホンモロコは全国一の生産量(20t)を誇っています。



▲ホンモロコ



▲土壌用トマトの温室(イメージ)



▲魚の養殖施設(イメージ)

駅ホームドア等の設置 補助制度を新設

1億7,565万円

鉄道事業者がホームドアを設置する場合、費用の一部を負担する市町村の負担額の2分の1を補助します(3駅)。また、ホームドアが未設置の16駅において内線付き点字ブロックの設置費用の一部を補助します。



▲東武東上線・和光市駅の設置例

自民党議員団が県議会の政策機能をフル稼働

埼玉県防災ヘリ 山岳救助の有料化実現

自民党議員団が全国に先駆けて提出した、県の防災ヘリコプターで登山者が救助された場合5万円程度の手数料を徴収するための条例改正案が可決されました。山岳救助活動は、他

の救助活動と比較して、より高い危険を伴うものであり、本県でも、平成22年7月に山岳救助中の防災ヘリが墜落し、5人の航空隊の命が失われました。救助の費用は受益者負担

の観点から、一定の負担を求める必要があると考えます。また、有料化により、登山者に注意を促し、山岳遭難の抑止や山岳保険への加入の啓発に繋がると期待しています。



農林水産業振興条例の制定 ～関東圏では初めて～

自民党議員団では、昨年5月からプロジェクトチームを立ち上げ、条例づくりに取り組みました。その間、農林業関連団体との意見交換、県内11か所の現地視察、県民コメントの意見を条例に盛り込みました。武内県議は作業チームのメンバーとして文案作成に携わり、委員会での質疑の答弁に立ちました。

平成29年度予算には条例の理念が反映され、予算の増額が図られました。この条例の制定により、未来に希望を持って、埼玉の農林水産業に取り組まれることが期待されます。

県5か年計画(案)に 対する修正案を可決

自民党議員団は、昨年12月議会から継続審査になっていた「埼玉県5か年計画(案)」に対して修正案を提出し、賛成多数で可決されました。

武内県議は、今年1月から3月まで週1回ペースで開催された検討会と5か年計画特別委員会の作業委員として、修正案づくりの中心的役割を果たしました。今回は、政策提案型議会の一つのモデルを示したと言えます。



〈特別委員会での審議〉

太陽光発電施設設置による乱開発防止の体制づくり

太陽光発電施設の設置に伴って周辺住民の意向に反した乱開発等が行われないよう、実態調査や市町村等と連携した体制づくりに取り組むことになりました。

移住・定住の総合窓口の新設

移住希望者の広い要望に応えるために、農林部だけでなく総合窓口の設置を提唱した武内県議の質疑を受け、新年度予算では企画財政部に「住むなら埼玉総合窓口」を新設し、様々な移住のニーズに応えることとしました。



▲比企地域で作成した移住ガイドブック

高齢者講習の受け入れ枠の拡大と補助制度の新設

武内県議が、今年3月の高齢者講習制度改正による課題を指摘したことに対し、警察本部は、運転免許センターでの講習実施や自動車教習所に対する補助制度の新設、講習の空き状況などの電話相談を、新たに行うこととしました。

車の見通しを妨げる街路樹や植栽のカット

交差点付近の安全対策として、街路樹や植栽の除去を武内県議が一般質問の中で提案したことを受け、県では街路樹選定と植栽の除去を実施しました。



▲川越坂戸毛呂山線坂戸市入西地区

武内まさふみの活動日誌

視察

■人材育成・スポーツ文化振興特別委員会

●日本電気(株) (東京都港区)

同社は、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、顔認証システムや指紋認証システムなどの製品開発を進めています。施設への入場者を登録された顔により自動でチェックでき、セキュリティとスムーズな人の流れを実現できます。この技術の応用で、たとえばサッカー場などで迷子のお母さんを探すことも可能です。

●大日本印刷(株) (東京都品川区)

同社は、美術作品の新しい鑑賞方法を提案するプロジェクトをルーブル美術館と共同で実施しています。ルーブル美術館の所蔵作品を遠隔地で展示したり、歴史的建造物を全方位カメラで撮影し「ペリスコープ」をかけると鑑賞者が建物内を歩いているような仮想体験もできます。(1月23日)



▲絵画の中に入り込んだ感覚を体験

■久喜試験場視察

実証試験が間もなく開始される大規模トマト栽培技術の試験農場を視察しました。



▲トマトの成長を促すCO₂のタンク

■福祉保健医療委員会

●埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」(川越市)

県では、県内の発達障害者の相談機関として「まほろば」を設置し、社会福祉法人けやきの郷に運営を委託し、相談のほか、就労支援や通所事業所の運営も行っています。自閉症の人がパレット作成作業を行っていました。出来上がった製品の質の高さが、発注企業から評価されているとのことです。



▲作業所で働く皆さん

●埼玉医科大学国際医療センター(日高市)

平成19年4月に開設された同センターは、がん、心臓病に関する高度専門医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供することを使命としています。また、地域医療の最後の砦として、治療が難しい患者を積極的に引き受けています。

当日は、医師の派遣をはじめとする救急医療体制や医師の研修施設の整備など、医療の質を向上させる取り組みを視察しました。(2月7日)



▲配備されたドクターカー

式典等への列席

●埼玉県立循環器・呼吸器病センター新館棟竣工式

新館棟には、緩和ケア病床(24床)、感染症病床(21床)、集中治療室(RCU8床)を新設するとともに、ハイブリッド手術室などの高度医療機器が整備されました。これにより、循環器系および呼吸器系の高度・

専門病院として、より質の高い医療が提供されます。すでに3月21日から外来診療が開始されました。

竣工式には、福祉保健医療委員会副委員長として出席し、くす玉開披を行いました。

(2月19日)



●越辺川・川のまるごと再生事業お披露目会

平成24年度に採択され、平成25年度から4年がかりで県が整備していた「越辺川・川のまるごと再生事業」が完了し、毛呂山町苦林から越生町の梅林までの14.5kmの遊歩道が整備されました。

このプロジェクトでは、遊歩道の整備と併せて、河川の浚せつや護岸工事などの河川改修を行い、河川の安全性を向上させました。今後は、地域の健康、観光、憩いの場として、地元の皆さんによる有効な利用が期待されます。(3月19日)

●「あらかわ1」墜落事故殉職者への献花

県議会が閉会した翌日、自民党議員団では防災ヘリ墜落事故の殉職隊員の慰霊碑を訪れ、条例の改正の報告とともに、改めて山の安全を祈りました。秩父市内から1時間ほどの山中ですが、当日は雪が降ってきました。天候が急変する山の危険性を実感しました。(3月28日)

